

第三十一課

絶えず祈りなさい

祈りの生活

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。」

(イテサロニケ五・一六—一八)

主は、やもめと不正な裁判官のたとえをお話になって、人はいつでも祈るべきであり、失望してはならないことをお教えになりました。やもめが一つのことを執拗に求めたように、ある一つの恵みを求める時に、神の答が遅れたり、拒否されているように思える場合にも、忍耐をもって求めなければならないことを教えているように思えます。絶えず祈るように、すぐに祈るように、祈り続けるように、同じように目を覚めているように、御霊によって祈るようにと教えているみことばは、全生涯が祈りの生活となることを語っているように思えます。神の栄光が、私たちに、私たちの中に、私たちを通して、私たちの周囲に現されることを求める切なる思いと、神が子供の祈りに答えてくださるという確信を持つ時に、たましいの奥底のいのちは、常に信仰を

抱き、切なる求めと期待を抱きながら絶えず向上をして行きます。

私たちの黙想の最後にあたって、そのような祈りの生涯に必要なものが何であるかを述べることは困難ではありません。第一は、疑いなく、神の御国と栄光のために、全生涯をいけにえとしてささげることです。自分が善良で敬虔でありたいから絶えず祈るという者は、決してその目的に達しないでしょう。自分を忘れ、自分をささげて、神とその栄光のために生きるようになる時初めて私たちは、心を広くされ、すべてのことを神の光とみこころの中で考えさせられ、私たちの周囲にあるあらゆるものに、神の助けと祝福の必要、そして神の栄光の現れる機会を直観的に認めることができるようになるのです。なぜなら、どんなものも、心を満たすただ一つのこと、すなわち、神の栄光によって計られ、試されなければならないからです。また、神のものだけが、本当に神と神の栄光になることを、たましいが学んでいるからです。そして、全生涯が見上げる生活となり、心の底からの叫びとなり、神に力と愛をあかしし、栄光を現してくださることを求めるものとなります。信者は、自分がシオンの城壁の見張人、また、主が心にとめていてくださる者の一人であること、自分の叫びが本当に天の王を動かし、そうしなければ成し遂げられないみわざを行ってくださるようになることを自覚するようになります。信者はまた、「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。すべての聖徒のために、……また、私のために祈りなさい」「絶えず祈り、私たちのために祈りなさい」というパウロの勧めの

ことばがいかに真実であるかを理解できるようにあります。自分を忘れ、神に対し、人々の中に神の国が建設されることを求めて生きることは、絶えず祈りを学ぶことに通じる道です。

この、神にささげ切った生涯は、自分の祈りには効果があるという確信を伴わなければなりません。恵み深い主は、何にもまして、私たちの求めを聞いてくださる神として、御父を信じるように祈りの学びの中で強調されました。「求めなさい。そうすれば与えられます」は、確実に答を予期したものであり、イエスの教えの初めと終りに出て来ます（マタイ七・七、ヨハネ一六・二四）。この確信が私たちを捕える時、私たちが神に祈り、神が私たちの求めを聞いてくださるという問題は当然のこととなり、私たちはこのすばらしい力を使わずにいられなくなります。そして、たましいは完全に神に立ち返り、私たちの生活は祈りとなります。神は時間を必要とし、また実際に時間を取られます。なぜなら、私たちや私たちの周囲の者は時間に制約された被造物であり、成長の法則のもとにいるからです。しかし、信仰の祈りは一つでもむだになることがないので、時には祈りが蓄えられる必要があります。忍耐強い祈りは退けられることがないので、祈りが、神の御前にあって、願いと信仰の、静かで執拗な生活となります。ああ、もうこれ以上、理屈を並べ立てて、生きた神の自由で確かな約束を限定したり弱めたりすることがないようにしましょう。その力を奪ったり、それが靈感を与えてくれるすばらしい確信を奪われることがないようにしましょう。神や、神の隠れたみこころや、神の約束の制限の中にはなく、私たち自身

の中に妨げるものがあるのです。私たちは、約束をいただくのにふさわしい者ではありません。単純で、しかも真実な神の約束のみことばに對して、心を全部さらけ出しましょう。みことばが私たちをさぐり、へりくだらせてくれます。みことばが私たちを引き上げ、喜ばせ、強めてくれます。求めるものは得られることを知っている信仰にとって、祈りは、仕事でも重荷でもなく、喜びであり、勝利です。それは必要欠くべからざるものとなり、第二の天性となります。

この強い求めと確信の結びつきは、私たちのうちにいます聖靈の働きにはかなりません。聖靈は私たちのうちに宿り、私たちの存在の深い所に御自身を隠し、見えない、聖なる方、すなわち、神御自身を求める思いをかき立ててくださいます。聖靈は、ある時は、ことばに表せないうめきをもって、またある時は、意識的な確信をもって、ある時は、私たちに對するキリストの深い啓示を求める特別な願いの中で、またある時は、一人のたましいのため、あるいは教会や世の仕事のために願う願いごとの中で、神に飢え渴く心を起させ、神の存在が知られ、栄光が現されることを求める思いを与えてくださいます。神の子が御靈にあつて、本当に生き、歩むところでは、肉にとどまることでは満足できず、靈的になることを求めるようになります。あらゆる点においてキリストのいのちとキリスト御自身が現されるにふさわしい器となることを聖なる御靈に求めるところでは、恵み深い御子の絶えることのないとりなしの祈りのいのちが、私たちの生活経験の中で啓示されます。それは繰り返して啓示されるのです。私たちのうちにあつて祈ってください

るのはキリストの御霊なので、私たちの祈りは聞かれないはずはありません。御霊によって祈る私たちには、時と、忍耐と、絶えず新たにされる祈りが必要です。それによって障害物が征服され、神の御霊と私たちとの間の一致は完全なものになります。

しかし、そのような、絶えることのない祈りをささげる生活に一番必要なことは、イエスが私たちに祈りを教えてくださることを知ることです。私たちは、イエスの教えがどのようなものか、分りかけてきました。新しい思想や見解を伝えるのではなく、失敗や過ちを発見することでもなく、欲求や信仰をかき立てることでもありません。たといそれがどれほど重要なことであつたとしても、イエスが私たちに本当に教えようとしたことは、私たちを御父の前におけるイエスの祈りの生活にあずからせることでした。弟子たちに、祈りを教えていただきたいという気持ちを起させたのは、祈っておられるイエスの姿でした。私たちに本当に祈りを教えるものは、いつも祈っておられるイエスの信仰です。祈りの力はイエスのみにあります。私たちはその理由を知っています。祈っておられる方は、私たちのかしらであり、いのちです。その方のはずべて私たちのものであり、自分自身を全くささげる時に、そのすべてが与えられます。その方は、血によって、私たちを直接神の前にお導きになります。至聖所は私たちの家で、私たちはそこに住むのです。神に近く生活し、遠くにいる者を祝福するために神が近くに來られたことを知っている者は、祈らないではおられません。キリストは、私たちを御自身の祈りの力と祈りの生活に

あずかせてくださいます。ですから、私たちの真の目標は、多く働いて、その働きがうまくいくように祈ることではなく、多く祈って、祈りの中で得られる力と祝福が私たちを通して人々に届くように働くことです。キリストは、いつでも生きていて祈り、救い、治めてくださいます。キリストは、私たちを御自身の祈りにあずかせてくださいます。私たちがキリストを信頼するなら、キリストはそれを私たちのうちに保ってくださいます。キリストは、私たちが絶えず祈ることを保証されるのです。キリストは、御自身がどのように祈るかを教えてくださることによって、また、私たちの中で祈ってくださいることによって、更には、キリストにあつて、キリストのように祈るように私たちを導かれることによって、教えてくださるのです。

私たちが絶えず祈らせるのは、私たちのいのちであるキリストがいつも祈られる姿です。キリストの祭司職が永遠のいのちの力です。その復活のいのちは決して衰えることなく弱ることもありません。また、そのいのちは私たちのいのちでもあるので、絶えず祈ることは、天のいのちの喜び以外の何ものでもありません。ですから、使徒が次のように言ったのです。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。」絶えることのない喜びと賛美の中にあつて、絶えることのない祈りは、永遠のいのちの力の現れとなります。イエスは、永遠の世界でいつも祈っておられます。ぶどうの木と枝の結びつきは、実に祈りの結びつきです。キリストに最もよく似た姿、キリストの天の栄光に最もよくあずかる姿は、キリストのとり

なしのみわざにあずかる姿です。キリストと私たちがいつまでも生きるのは、祈るためです。キリストとの結びつきを経験すると、絶えず祈ることが可能となり、現実となり、私たちの生活の中で最も聖く、恵まれた神との交わりとなります。私たちは、至聖所の中、神の臨在の前に住むことができます。御父の言われることは、私たちが行います。御子が言われることは御父が行われます。絶えず祈ることは、地上において、天が私たちに啓示されたことであり、礼拝と賛美の歌の中で憩ういのちの前触れであります。

私の父よ。絶えることのない祈りと、絶えることのない交わりと、絶えることのない答と、いつも生きて祈っておられる方と一つになるといふ絶えることのない経験とを与えてくれるこの素晴らしい生活を与えてくださり、心からあなたを賛美いたします。ああ、神よ。あなたの栄光の前に宿り、また歩き続けることによって、祈りがあなたとともにある私の生活の自然な表現となりますように。

恵み深い救い主よ。あなたは天をおくだりになり、私の必要と叫びにあずかってくださいました。それは、私が勝利ある祈りにあずかるためです。このことのゆえに、心からあなたを賛美します。私を祈りの学校に入れてくださり、すべてが祈りである生涯の祝福と力とを教えてください。

いましたことを感謝いたします。そして、何にも勝って、あなたは、あなたのとりなしの祈りの生活にあずからせてくださいました。それは、私たちを通して、あなたの祝福が周囲の人々にまで及ぶためです。

聖霊よ。私のうちにおけるあなたのみわざのゆえに感謝します。あなたによって私は引き上げられ、御子と御父との交わりにあずからせていただき、三位一体のいと愛の交わりの中に入れていただきました。神の御霊なる主よ。私にあってみわざを完成してください。祈りのとりなし手であるキリストとの完全な交わりにあずからせてください。あなたが絶えず私のうちにとどまってくださいることによって、私の生活を絶えることのないとりなしの祈りの生活へ変えてください。そして、私の生活が絶えず神の栄光となり、周囲の人々の祝福となりますように。アーメン。